

193

週刊時報

昭和十二年七月二十七日

(139)

北支事變特輯

外務省情報部

事變下各國政府、、、、、、、、、、、、、

(A) 英國

「イーデン」外相演說（七月十九日）

(B) 比島

比島支那人ノ抗日委員會

各國新聞論調

(1) 支那紙、、、、、、、、、、、、、四頁

(1) 南京 (2) 北平 (3) 上海

(2) 英國紙、、、、、、、、、、一頁

(3) 米國紙、、、、、、、、、、一三頁

(4) 佛國紙、、、、、、、、、、一八頁

(5) 獨逸紙、、、、、、、、、、二二頁

(6) 羅國紙、、、、、、、、、、二二頁

(7) 埃及紙、、、、、、、、、、二三頁

事變卜支那狀勢

- (1) 蔣介石ノ聲明全文（七月十九日）、、、、、二五頁
- (2) 蔣介石ノ聲明支持（二十一日附京紙）、、、、、三二頁
- (3) 援助抗敵將士委員會組織、、、、、、三二頁
- (4) 中國共產黨ノ通電、、、、、、三三頁

支那

- (1) 廬山會議、、、、、、三五頁
- (イ) 談話會狀況
- (ロ) 廬山ニ於ケル汪精衛ノ演說要旨
- (ハ) 會議議題中ノ重要事項
- (2) 小麥ノ輸出禁止、、、、、、四〇頁
- (3) 人絹製品ニ對スル輸入税ニツイテ、、、、、、四〇頁
- (4) 小麥粉輸出禁止、、、、、、四一頁
- (5) 余漢謀、福建綏靖主任兼任、、、、、、四一頁
- (6) 許世英ノ上海各界聯合送別會ニ於ケル演說要旨四二頁

- (7) 濟州鐵路公司理事會發習式、、、、四四頁
- (8) 坊子江ノ増水、、、、四四頁
- (9) 廣州市附近ニ「コレラ」發生、、、、四五頁
- (10) 日英交渉（新聞論調）、、、、四五頁
- (11) 汪精衛ノ談話要領、、、、四六頁
- (12) 「タン」紙特派員支那視、、、、四七頁

滿洲國

恩威ニ關スル紹晉煥發セラル、、、、四九頁

歸國

- (1) 新財政立直措置要綱、、、、五〇頁
- イ、各種ノ増稅
- ロ、「シ」首相聲明
- ハ、裁相説明
- ニ、新財政措置ト英國
- ホ、公債價格維持。來年度隊算編成方針

- (2) 關稅獨裁案兩院通過、 、 、 、 、 、 、 、 五五頁
- (3) 佛國議會閉會、 、 、 、 、 、 、 、 五五頁
- (4) 公定歩合引下、 、 、 、 、 、 、 、 五五頁
- (5) 佛國社會黨大冒助議（西國問題） 、 、 、 、 、 、 、 、 五五頁

西國問題

事變ト各國政府

(A) 英國

○「イデーデン」外相演說（七月十九日）

七月十九日下院ニ於ケル「イデーデン」外相演說中今次事變ニ關スル部分要點左ノ通。

- 一、事變ハ依然渾沌且不安ナカラ、事件ハ日支何レノ挑發セル所ニモアラサルモノト認メラレル。
- 二、日本政府ハ現地協定不容喙方南京ニ通報シタ由テアル。該協定内容ノ通報ハナイカ、其ノ内支那側謝罪ハ既ニ實行サレタト言フ。
- 三、日支共大部隊兵力移動中テアルカ、兩國ノ言フ所ニ依レハ、右ハ全ク防遏且防禦的テ敵對行爲開始ノ意ナシト。
- 四、但シ事變ハ重大ナルニ付、他政府トモ互ニ通報シタ處、米、佛政府ニ於テモ其ノ關心及和平解決方希望ヲ表明シタ。
- 五、右ノ實現ハ、平和維持ニ對スル關心表示以上ニ出テタル第三國ノ干涉ノ意圖ナク、兩當事國ニ委ヌルコト最モ可能ナルヘキモ、各ノ

人ニ於テ解決ニ何等奇異スルコトアラハ喜ンテ篇スヘキ旨ヲ兩國  
 へ申入レテ置イタ。(本節ニハ多少ノ脱字等アル如クナルモ、不  
 収取其ノ儘ヲ示ス)

六、北支ノ不確定狀態力繼續シ此ノ種事件カ現地解決ニ依リ一時糊塗  
 セラルル限り、事態ハ引續キ危險ヲ孕ムテアラウ。日支政府ハ其  
 ノ案件ノ包括的解決策探究ヲ爲スヘキモノテハナイカ。

七、吾人ハ數旬前、日英國交調整ニ關スル日本側「アプローチ」(申  
 込)ヲ歡迎シタ。日英親善關係ノ強化ハ極東一枚事感緩和ニ奇異  
 シ、延テ一切ノ關係國ニ利益スヘキヲ確信スル。右(國交調整ヲ  
 指ス)方策ハ他ノ何レノ方策ヨリモ極東ノ發展、延テハ其ノ繁榮  
 ヲ招來スル。是レ吾人カ本事件ノ推移ヲ眞ニ憂慮シ、其ノ解決ニ  
 依リ一層安定且良好ナル事態ノ生センコトヲ熱望スル所以テアル。

尙七月二十二日英國下院ニ於ケル外務當局答辯左ノ通。

九國條約第七條ヲ「コミットメント」トセサル限り、北支事變ハ  
 英國政府ニ何等「コミットメント」ヲ負ハスルモノニアラス。不  
 戰條約、聯盟規約ニ付テモ亦同シ。(「イーデン」外相)

（Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns and is too light to transcribe accurately.)

二、目下ノ北支事態ノ繼續スル限り、最近英國政府ノ期待シツツアリ  
シ日英交渉ヲ開始スルハ「オボチユーン」(時宜ニ適ス)ト認メ  
ラレサル旨日本政府ニ通告セリ。(「イーデン」外相)

三、宛平砲撃ハ二時間ノ警告後行ハレ、石ハ七月十九日夜支那側射撃  
ニ依リ日本將校一名負傷セル事件、及二十日及二十一日ノ支那側  
射撃ニ對シ復讐トシテ行ハレタモノナリト。(「クランボーン」  
政務次官)

(B) 比局

○ 比局支那人ノ抗日委員會

蔡廷鍇ハ「マニラ」中華商會其ノ他ノ會合ニ於テ抗日救國金援助  
ニ際シ宣傳演說ヲ試ミタ後、秘書同伴七月二十日發「ロシヤ」號テ  
香港ニ赴イタ。同人ノ「マニラ」來訪ヲ礙トシ、中華商會ノ肝煎リ  
テ「比律賓抗敵委員會」ナルモノカ組織サレ義捐金募集ニ着手シツ  
ツアル。



各國新聞論調

(1) 支那紙

(イ) 南京

「七月十八日ノ漢字紙ハ「北方ノ時局愈切迫ス」  
 「日本四十萬ヲ動員シテ大規模ノ侵略ヲ行ハントス」  
 「日本政府ハ既ニ最後の訓令ヲ發シテ苛酷ナル要求ヲ提出ス」  
 「和平モ次第ニ進行中テアルカ解決如何ハ疑問テアル」  
 「我國ハ九箇國條約締結印國ニ覺悟ヲ送ル」  
 「日本ハ既ニ世界ノ公敵トナル」  
 等ノ大見出ヲ附シテ時局ハ既ニ最後ノ點ニ到達シタカノ様ナ筆致テ大々的ニ報道シタ、又盧山談合會ニ於ケル政府要人ノ訓話ヲ綜合スレハ求戰テハナクシテ應戰テアル旨及全國各地ニ於テ續々抗敵後援會成立シテ活ルト報シタ各紙ノ論調次ノ如シ」

△中央日報

「時局ハ既ニ最後ノ危境ニ到達シタカ、今後ノ安危如何ハ一二日本ノ一念即チ無條件撤兵ノ如何ニアル、日本カ撤兵シナケレハ支

那トシテハ自存ノ途ナク如何ナル犠牲ヲ拂ツテモ應戦シナクテハ  
ナラヌ、戦争一度起ツタナラハ其ノ結果ハ決シテ日本ノ幸テハナ  
クシテ、國際戦争ヲ惹起シ延ビテハ人類文明ニ大ナル累ヲ與フヘ  
キヲ以テ日本願達ノ士ノ反省ヲ求ム」

△朝報

「冀察當局ノ態度ニ疑ヲ抱キテ、國民政府ノ決意ニ拘ラス、談判  
ノ内容及進行ノ程度オモ發表シナイハ不都合テアル。」

△新民報

「日本ノ暴行停止スル所ヲ知ラス唯交戦アルノミ。」

七月二十四日南京漢字紙ハ依然トシテ日本軍ハ約ニ反シテ撤兵セサ  
ルノミナラス却テ増兵ノ故アリト報スルト共ニ今井武宮談話（日本  
軍ノ撤兵ハ未タ其ノ時機ニアラストノ聲明）ヲ一齊ニ掲載シ居リ、  
論說ヲ掲ケタノハ、南京日報、朝報ノミテ、前者ハ日本ノ企圖スル  
ハ華北ノ平穩ニシテ少クトモ平津地方ノ冀東化ナルニ付假令撤兵シ  
小廉ヲ得ルモ之カ對策ヲ怠ルヘカラスト述へ、後者ハ現地ニ於ケル  
協定ノ内容ハ知ルヲ得サルモ冀察當局ノ執ツタ措置即チ馮治安部隊

5

ノ北平撤退、排日出版物ノ取締等カ所謂日本側要求トシテ傳ヘラレタルモノト符合スルモノアルハ注意ヲ要スル、協定ノ内容ハ兎モ角トシテ吾人ハ今後ノ事實ノ推移カ日本側宣傳ノ如クナラサランコトヲ望ムト共ニ、政府ハ蔣介石ノ談話ニ基キ今後ノ事態ニ對シ適當ノ措置ヲ執ランコトヲ希望スト論シタ。

(四) 北平

△華北日報（七月十九日）

「時局ハ今ヤ和戦ノ岐路ニ達シタカ、時局收拾ニハ日本ノ誠意ト九國條約締約國ノ義務ニカカツテ居ルカ、和平ニモ其ノ限度アリ、吾人ハ民族ノ生存、領土保全ノ爲ニ、決死的奮闘ト壯烈ナル犠牲ノ準備ヲ要スル。」

△世界日報（七月十九日）

「米國ニ對シテハ其ノ曖昧ナル態度ニ鑑ミテ餘リ希望ヲ懸ケ得ナイカ、  
「ルーズベルト」ガ中立法案ノ討議ヲ命シタル此ノ際、米國論者ノ言フ様ニ同法案ニハ單ニ軍需品ハカリテナク、原料品補充、金融ヲモ包含セルモノテアツテ吾人カ米國ニ對シテ望ミ得ル



(イ) 十七日ノ盧山談話會ニ於テ、汪、蔣兩氏出席、講演シテ特ニ蔣ヨリ北支事變ニ對スル政府ノ一貫シタ方針ト、侵略者ニ對シテハ飽迄抵抗守土スヘシトノ重大ナル決心ヲ述ヘタノテ異常ニ氣勢舉リ、談話會ハ圓結禦侮ニ非常ナル成果ヲ收メタ、

(ロ) 九箇國條約締結國駐在ノ支那大公使カ、駐在國當局ニ對シテ今次日本軍ノ行動カ同條約ニ牴觸スル旨ノ電書ヲ提出シタ、

(ハ) 米國々務長官カ聲明書ヲ發表シタ、

(ニ) 日本政府ハ十七日五相會議ノ結果重要訓令ヲ發シタ、

(ホ) 日本ハ四十萬ノ大軍ヲ動員シテ支那侵略ヲ準備シタ、

等ノ大張袋ナル報道ヲナシ、又十七日ノ「イヴニング・ポスト」ハ、日本側カ廿九軍ノ平津地方撤退、盧溝橋ニ日本軍ノ駐屯、冀察政務委員會ノ改組及南京ヨリノ分離、津石鐵道ノ建設並ニ國匪議定書駐兵權ノ確認ノ五項ノ要求ヲ申出テタル旨ヲ報シタカ、十八日董顯光（軍事委員會外國通信檢查官）ハ日本カ挑戦スル場合ハ、我々ハ一戦ヲ辭セストノ對米放送ヲ爲シタ。」

△「ノース。チャイナ。デーリー。ニュース」(七月二十九日)

「今次事件カ日本側ノ計畫的行動テアルカ否ヤハ重要テナイ、目下ノ要點ハ解決條件ヲ「ディクテート」シ得ル日本ノ兵力ニ在ルカ、日本ハ容易ク其ノ要求ヲ強行シ得ヘシ、一方國民政府ハ、蔣介石等ノ態度ヨリ見テ干渉ノ際一應地方的解決ニ委ネテ、更ニ準備ヲ整ヘ他日ニ期セントスルテハナイカト推測セラルルカ、日本ハ此ニ對シテ却ツテ成心ヲ有ス、日本カ此ノ際勢ニ乘シテ深入シタナラハ將來拔差ナラヌ破目ニ陥ルハカリテナク、日本ノ窮極ノ目的ノ日支ノ提携ニ在ル以上右目的カ「サーベル」テハ到達シ得ナイカラ、日本ハ緩和政策カ最上ノ途テアルコトヲ悟ルヘキテアル、一方支那モ其ノ國家組織ノ統一ヲ餘リニ過信スルコトハ頗ル危険テアリ、結局双方ノ自重、外交手段ニ依ル事態ノ解決ヲ要望ス。」

二十一日ノ支那紙ハ時局ハ愈々最後ノ重大時期ニ達シタトノ大見出ヲ以テ、日本ハ續々大軍ヲ増派シタ、現地ニ於ケル交渉ハ愈々此一兩日内ニ最後ノ階段ニ達スル、東京方面ノ空氣緊張ス、日本飛行機平漢線ニ現ハレ列車ヲ掃射シタ。天津日本軍ハ郵便物ノ検査ヲ開

始スル等記事ヲ目立チタ書振ニテ報道シ、大公報ハ日本ノ空氣カラ  
見テ和平解決ノ希望ハ甚タ少イ國民ハ如何ナル離間挑發策ニモ乗ル  
コトナク、中央竝ニ地方當局ト一致共同困難ニ赴カネハナラヌトノ  
趣旨ヲ述ヘタ。

(2) 英國 紙

七月十八日英國主要紙ハ、北支問題ニ關シ英、米、佛間ニ意見ノ交換ハナツタカ、夫レハ右事態ニ對スル各目ノ關心ヲ示スニ止マリ、共同動作又ハ共同若ハ單獨交渉乃至調停ハ問題トナツテ居ナイ、英國トシテモ既ニ日支ニ對シ其ノ關心ヲ示セルニ付、差當リ右以上ノ措置ヲ執ルマイトシ、又在支日本大使館ハ中央軍ノ河北北上ハ海津、何應欽協定違反ナリト警告セル旨ヲ傳ヘタ。

△「サンデー・タイムズ」(七月十八日)

支那ノ將來ハ列國ノ利益ニ及ホス影響甚大ナルモノアル故「ハル」長官聲明ハ實ニ支那ニ於ケル戰爭ニ關シ敢モ能ク他國ノ言ハント欲スル所ヲモ表示シタモノデアアル。

盧溝橋事件ハ故意ノ挑發ト言ハンヨリハ寧ロ突發事件ナルニ付、天津交渉ノ妥結ヲ望ンテ止マヌ。日本カ右事件ノ不擴大ヲ欲セハ、支那側ノ面子ヲ損ネサル話合ニ達スルコトモ可能デアラウ。

△「オブザーヴァー」(南京特派員七月十七日發)

イ、南京カ天津交渉ノ結果ハ其ノ承認ヲ得ヘシトスルニ對シ、日



(2) 英國 紙

七月十八日英國主要紙ハ、北支問題ニ關シ英、米、佛間ニ意見ノ交換ハナツタカ、夫レハ右事態ニ對スル各自ノ關心ヲ示スニ止マリ、共同動作又ハ共同若ハ單獨交渉乃至調停ハ問題トナツテ居ナイ、英國トシテモ既ニ日支ニ對シ其ノ關心ヲ示セルニ付、差當リ右以上ノ措置ヲ執ルマイトシ、又在支日本大使館ハ中央軍ノ河北北上ハ梅津、何應欽協定違反ナリト警告セル旨ヲ傳ヘタ。

△「サンデー・タイムズ」(七月十八日)

支那ノ將來ハ列國ノ利益ニ及ホス影響甚大ナルモノアル故「ハル」長官聲明ハ嘗ニ支那ニ於ケル戰爭ニ關シ敢モ能ク他國ノ言ハント欲スル所ヲモ表示シタモノテアル。

盧溝橋事件ハ故意ノ挑發ト言ハンヨリハ寧ロ突發事件ナルニ付、天津交渉ノ妥結ヲ望ンテ止マヌ。日本カ右事件ノ不擴大ヲ欲セハ、支那側ノ面子ヲ損ネサル話合ニ達スルコトモ可能テアラウ。

△「オブザーヴァー」(南京特派員七月十七日發)

イ、南京カ天津交渉ノ結果ハ其ノ承認ヲ得ヘントスルニ對シ、日

本側ハ現地解決ヲ主張スル爲成行カ變慮サレル。

ロ、北支事件ハ重大ナル國際危機ニ於ケル英米兩國政策調整傾向強化ノ更ニ新ナル實例ヲ示シ、「ハル」長官聲明中、本國ハ軍備増大ノ用意アリトアル)ハ特筆ニ値スル。米國政治家カ右ノ如ク威嚇的ニ武力行使ニ言及セルコトハナイトサレル。但シ右聲明ハ敢高法院問題論争ヲ繞ル國內ノ注意ヲ外ニ向ケシメントスル大統領ノ意カ汲入レラレ居ル點ハ看過シ得ヌ。

△「タイムス」(七月十九日)

宋哲元ノ遺憾表示方日本陸軍側ノ發表カアツタ。中央軍ノ河北退去ナクンハ日本増援軍北支撤退モナカラウ。樂觀尙早。

△「マンチエスタ」(ガーディアン) (七月十九日)

今次危機ハ迅速ニ其ノ最後的段階ニ達シツツアリ(兩京)

△「モーニング・ポスト」(七月十九日)

外國筋ノ報道ニ依レハ、中央軍ハ日本側警告ヲ無視シ河北越境シタ。(北平)

△「デーリー・テレグラフ」(七月十九日) (社説)

南京カ七月十七日日本迎候ヲ始ント城後迎候ニ等シトシ。日本調  
カ全ク然ラストスル解釋ノ相違ハ、日本政府ノ本件交渉及軍事行  
動地方化ノ希望ヲ示ス。支那ニ於ケル威封行為最大防止困難ナル  
ヲ認ムルハ日本ノミテハアルマイ。是レ右希望ノ原因テアル。南  
京ニシテ之ヲ耐侍セハ宋哲元トノ解決モ困難テハナカラウ。

(3) 米 國 紙

米國各紙ハ連日北支問題ノ推移ニ關スル報退其ノ他ノ爲ニ多大ノ紙  
面ヲ割クト共ニ、學慮發展ノ決定的條件トモ見ラルル南京政府ノ出  
方ニ對シ多大ノ關心ヲ持チ、或ハ  
(一) 支那ハ既ニ昔日ノ支那ニアラス、今度コンハー戰ヲ辭セサルヘシ。  
トシ或ハ

(二) 南京政府ハ強カリヲ言ツテ居ルカ、結局虛勢ニ過キヌ、中央軍ノ  
兵器ハ事實上各國兵器ノ寄セ集メテ費用ニ過セサルノミナラス、  
蔣介石ハ從來ノ抗日思想煽動ノ爲ニ却テ進退兩難ノ窮地ニ陥リツ  
ツアル。

等各種ノ視測カ行ハレテ居タ處、七月十九日蔣介石ノ聲明發表ニ對

シテハ、二十日各新聞ハ何レモ之ヲ報道シ、就中紐育「タイムス」上海特電ハ、蔣介石ハ愈々多年ノ沈黙ヲ破リ重大事態ヲ國民ニ訴ヘタト傳ヘテ一般ノ注意ヲ惹キ、又七月十九日南京發A。P。ハ、南京政府ノ發表セル日本側申入ニ對スル同政府回答全文ヲ報道シ、七月二十日紐育「タイムス」之ヲ一面ニ掲載シタ。

當在支外國通信員ノ報道ハ最近ニ至リ日本側ヨリノ材料ヨリモ支那側ノ材料ヲ根據トシテ種々ノ報道ヲ爲ス傾向カ多クナツタ様ニ認めラレタカ、七月二十二日頃ヨリノ北平、東京方面ノ通信ハ更ニ、北支ノ事態ハ稍緩和ノ形勢テアル模様ヲ傳ヘテ居ルカ、同時ニ右ノ内ニハ日支ニ果シテ戰意ノ有無ニ付、種々ノ臆測ヲ傳ヘテ居ル處、平和的材料トシテハ内地師團ノ出發見合セ、南京政府ノ地方協定同意、支那兵ノ撤退開始、日本ハ南京政府ノ戰意ナキコトヲ信セサルモ之ヲ希望シ居ルコト等、日本側材料ヲ報シ居ル外、北平外交界ニ於テ北支ノ危機ハ既ニ去リ、問題ハ兩國中央部ノ交渉ニ移サレ様トシテ居ルモノト信シテ居ルコトヲ傳ヘテ居ル。之ニ對シ前途樂觀ヲ許サストノ見方トシテハ、天津日本軍當局ハ支那軍ノ撤退開始ヲ以テ危

機既に去レリト稱シテ居ルモ、現地視察者ノ報告ニ依レハ、支那軍ハ一部地點ヨリ撤退セル以外日本側ノ要求ヲ無視シテ、未ダ撤退ノ命令ヲ受ケスト噴へ、依然盧溝橋附近ニ頑強ツテ居ルト共ニ、翌臺ニ於テハ日本軍ノ増援隊及軍需品續々到着シテ活況ヲ呈シツツアルコト（七月二十三日「ステール」北平電報）、二十九軍ノ一司令官ハ飽迄モ現地ニ踏止マリ日本ト戦フ決心ナルコトヲ語ツタコト（同二十三日「ステール」北平電報）、日支双方共相手方カ先ツ撤兵スルコトヲ撤兵開始ノ條件トシ、總「ゴツコ」ヲ爲シ居ルコト（同二十日「キーン」北平電報）、山東ニ南京ノ爆撃機到着シツツアルト共ニ西安中央軍ハ鄭州ニ向ケ移動シツツアルコトヲモ報シテ居ル。各紙論議左ノ如シ

△紐育「タイムス」(七月十六日) (「平和ヘノ努力」)

擴大シテ行ク東亞ノ危機ヲ米國政府ハ注視シテ居ル。現地解決ニ對スル意外ニ強硬ナ南京政府ノ拒絶的態度並ニ之ニ對スル日本ノ行動ハ事態ヲ稍ク悪化サセタ。若シ蔣介石氏カ現地解決ニ對シ絶對反對ノ立場ヲ固執スルニ對シ、日本側カ飽迄其ノ意思ヲ押通サ

ウトスルナラハ事懸直ニ變フヘキモノアラウ。

日支兩國政府カ自發的ニ事ヲ避ケレハ兎モ角、現今ノ狀態テハ英米兩國ノ勸告モ寸効ナシト思フ。然シモタ和協交渉カ挫折シタ譯テハナク、戰爭ヲ回避ノ希望ハ存スル。事懸ヲ注視シツツアル米國政府トシテハ、未タ戰爭回避ノ望カ失ハレヌ以上、今後孰ルヘキ具体的手段ニ付テハ何モ考ヘテ居ヌ候タ。

△「ブルツクリン。デーリー。イーグル」(七月十七日)「極東ノ危機」

極東ノ危機ハ米國ヲ捲込ム危險カ非常ニ多イ。戰爭カ始ツテモ太平洋ノ制海權ヲ持テル日本ハ其ノ欲スル物ヲ何テモ米國カラ買ヒ取レル。即チ英國ハ實際上日本ノ味方ヲスルコトトナル。「ルーズヴェルト」大稅領カ事件ノ捲添ヘテ避ケル政策ヲ決定セルハ明カテアル。米國ハ凡ユル犧牲ヲ拂ツテモ中立ヲ守ラネハナラヌ。

△紐育「ジャーナル」オヴ。コマース」(七月十七日)、「米國ノ對支投資」

現在ノ日支衝突區域ニ於ケル歐米諸國ノ投資利益ハ滿洲ニ於ケルヨリモ大テアル。然シ歐米諸國ノ主タル對支投資地域ハ中南支ニ在ル故、投資利益ニ關スル限り、北支ノ政情變化ハ大シテ重要テハナイ。

△「ポストン。トランスクリプト」(七月十五日)、「米國ノ過去ノ經驗」

米國ハ冷靜ニ五年前ノ「スチムソン」政策ヲ想起スヘキタ。當時米國ハ不戰條約ヲ以テ武装シテ勇敢ナ平和ノ「バイオニア」テアツタカ、歐洲諸國ハ之ニ追隨セス「リットン」委員會ノ報告スラ「スチムソン」的激越サハ帶ヒテ居ナカッタ。今日本カ支那ノ一、二ノ地方ニ於テ執リツツアル行動ニ對シ、口頭テ何ト非難シタ所テ今更何ウニモナラヌ。腰ノ据ツタ追隨國ナシテ米國獨リカ危險ヲ冒ス必要カ何處ニアラウカ。

△「ボルチモア・サン」(七月十七日) (果然「ヂレンマ」)  
日支關係ノ危険ハ米國カ單ニ中立法ヲ制定シタノミテ外部ノ紛争  
ニ超然タリ得ルモノトスル考ノ誤レルコトヲ悟ラセルモノカアル。  
其ノ「キヤツシュ・アンド・キヤリー」政策ハ、海軍力ノ強イ日  
本ニ有利ニ働クヘキカ故ニ、中立法ハ寧ロ反對ニ米國ヲ非中立狀  
態ニ置ク危険カ多イ。極東ニ戦争カ起レハ米國ハ困難ナ地位ニ立  
ツヘク、從ツテ充分ニ理性ト洞察トヲ以テ善處セネハナラヌ。

(佐) 佛國紙

△「ウーヴル」(「タブイ」外報部長)

英佛外務省ハ既ニ和平解決ノ望ヲ失ツタ。英國外務省ハ過去四十  
八時間慎重考究ノ結果、北支問題ニ對スル態度トシテ、日本ニ正  
面ヨリ反論セサルコトニ決定シタ。萬シ戰ハハ日本勝テ、英國ハ  
日本ト極東ニ於ケル權益ヲ論議スルノ爲ナキニ望ムヘク、又日本  
カ支那ニ深入リスレハ夫レ丈ケ太平洋自治領ニ對スル脅威ハ減少



スルカ故テアル。英國ハ北支事變ノ結果唯日本トノ友好條約交渉及經濟使節トノ詰合ヲ中止スルニ止メヨウ。支那軍カ北支ノ一省又ハ二省ヨリ退却ヲ餘儀ナクセラルル場合、佛蘇ハ武力併合不承認ノ原則ヲ明ニスル一九三二年一月七日附「ノート」、累次ノ米國「ノート」ニ參加ヲ聲明スルコトトナラウカ、此ノ場合ニモ英國現政府ハ五年前ノ「サイモン」外相ト同様口先ノミテ之ニ贊同スルコトトナラウカ。

△「ソアル」(七月十九日) (「ローランド・マレス」)

事件擴大ノ責任ハ全然支那側ニアル。即チ支那カ三十箇師ノ大軍ヲ北上セシメタ爲、日本ハ之カ對抗上増援軍派遣ニ決シタ。日本カ果シテ之ヲ使用スルヤ否ヤハ不明テアル。カヲ用ヒスシテ之ヲ示スノ必要アルハ、歐洲ニ於ケルト同様、極東ニ於テモ亦眞理テアル。目下ノ事態ニ於テハ現地解決ハ猶不可能テナイ。但南京政府カ飽迄之ヲ妨害スルナラハ事態ハ到底解決ノ途ナキニ至ラウ。支那ハ九國條約ニ關聯シ英國ニ申入レタカ、支那カ列國ヨリ何等援助ヲ期待スル能ハサルハ極メテ明瞭テ、若シ戰爭ヲ欲セハ支那

ハ宜シク自力ヲ以テ之ヲ爲スヘキノミ。支那カ事件ノ解決ヲ遷延  
スレハ夫レ丈ケ日本ノ要求ハ増大スヘク、右ハ日支交渉從來ノ經  
驗ニ鑑ミ明瞭テアル。

越エテ七月二十一日ノ佛國各紙ハ「戰鬪開始サル」ノ見出テ宛平城、  
蘆溝橋砲撃ヲ報スル北平除送、「アヴァニ」各東京電報ヲ掲載シ、  
又馮玉祥ノ北上、軍總司令任命張學良ノ登場ヲ報スル並送上海電報、  
日本銀行所有金塊再評價ヲ報スル東京路送電報ヲ刊登ソタ。  
「ブチ。ジュールナール」、「レピニブリツク」兩紙ハ七月二十日午  
前一時ノ、外務省聲明ヲ要約シタ大使館ノ公表ヲ掲載シタ。

△「ブチ。ジュールナール」紙ハ七月二十一日「ロンドンエール」氏所論  
日本ノ政策ハ中央政府ニ層層ノ脅カス、地方政權トノ直接交渉ニ  
依リ、歐洲諸國カ極東ニ注意ヲ向ケル暇ナキニ乗シ、徐々ニ北支  
ニ絶對的優越ノ地位ヲ築キ上ケ、依テ以テ軍略的ニ露支ノ聯合ヲ  
阻止スルニアル。而シテ右政策實現ノ爲軍部ハ全國民ノ支持ヲ受  
ケテ居ル。北京ニハ列國モ利害關係ヲ有シ、支那ノ領土保全ヲ保  
障スル九箇國條約モアルカ、今日列國ノ注意ハ西班牙ニ集中シ、

英國ハ「イーデン」外相ノ下院演説ニ明カナ如ク留保的態度ヲ執リ、米國ハ行動ノ自由ヲ留保シ、佛蘭西亦慎重ノ態度ヲ執リ、獨伊兩國ハ日本ト連絡カアリ旁々干涉シ得ル地位ニ在ルノハ蘇聯ノミタ。列強何レモ干涉ノ意思ナク、萬一干涉アリトスレハ西班牙共和政府カ犠牲トナル。蓋シ蘇聯ハ極東ニ勢力ヲ集中スル爲西班牙ヲ拋棄スルカラテアル。

△「ユマニテ」(共産黨) (七月二十一日)

「イーデン」外相ハ七月十九日下院ニ於テ、北支問題カ第三國ノ介入ナクシテ處理サルヘキヲ明言シタカ、之ハ日英兩國テ支那ヲ分割セントスルモノタ。

△「ファイガロ」(右翼系) (七月二十一日)

日本カ戦争ヲ欲シテ居ルノハ確實テアル。併シ數年來支那ノ國民的感情ノ再生ハ目覺シイ。日本ノ支那恐喝ハ巧ミナ術策カモ知レヌカ、今回日本カ迅速ニ成功シ得ルト見ルハ或ハ誤算カモ知レヌ

(5) 獨逸紙

北支事變ノ進展ト共ニ獨逸各紙ハ從來ノ北支ト南京政府ノ關係、支那統一等ノ抽象論ヲ脱却シテ防共ノ立場カラ事態ヲ論スルニ至ツタ、就中「ベルリナー・ベルゼン・ツアイツング」紙ハ七月二十一日ノ夕刊紙上テ次ノ如ク述ヘテ居ル、

獨逸ハ日支兩國ト正常關係ニ立ツ關係上紛争ノ速ナル解決ヲ祈ル、日支兩國ノ軍事行動ノ結果「モスクワ」カ最後ノ「笑フ第三者」トナツテハナラヌ、蘇聯軍カ滿洲國境ニ何ヲ畫策シテ居ルカ又支那赤化ノ努力、駐支蘇聯邦大使ノ策動等ハ周知ノ事實テアル、日支兩國ハ此ノ恐ルヘキ危險ヲ自覺シ可及的速ニ行動ヲ停止スル様切望スル。

(6) 羅國紙

△「モメント」(七月十日)

最近ノ蘇滿國境事件及今次北支事變等ハ、日本カ從來ヨリ準備セ  
ル所ヲ實行ニ移シタコトヲ證明スル。

△「ユニヴァーサル」紙(七月十五日)

日本政府ハ會ツテ屢支那ノ抗日、蘇聯ノ赤化宣傳カ極東不安定ノ原因タルコトヲ聲明シタカ、過去ノ極東事件ハ皆石ニ胚胎スル。蘇聯ハ帝政時代ノ侵略政策ト向ク蒙古ヲ奪ヒ、北支ヲ狙ヒツツアルモ、之ヲ邪魔スル日本ノ對支進出ヲ妨害センカ爲支那ノ内紛ニ依ル無政府状態ヲ利用シ、支那各地ノ赤化工作ニ出タコトハ周知ノ事實テアル。斯ノ如キ蘇聯ノ進出ニ對シ日本カ蹶起スルハ當然ノコトト言フヘク、今回ノ事件ニ於テモ、日本ハ滿洲國ノ安全及北支ニ於ケル自己ノ勢力擁護ノ爲北平方面ニ於テ防禦措置ヲ講スルノ當然ノ權利ナルヲ信シテ居ル。而シテ北支方面ニ戰爭發生ノ虞アルハ支那カ日本兵力ノ優越ヲ無視スルノ愚ヲ演スル場合カ、又ハ蘇聯カ行動ヲ開始スル場合テアラウ。

(7) 埃及紙

△「アハラム」(七月十七日)

本事變ハ相互ニ計盪的ノモノテハナク、日本軍ノ演習ヲ支那側カ誤解シタルニ基ク、支那側態度ハ、滿洲國創立以來北支ニ勢力ヲ

張ラントスル日本ニ對抗セントスル點ニ於テ當然テアルカ、他方日本ニ取ツテモ蘇聯カ支那ニ於テ活躍シ、支那ヲ危殆ニ陥レルヲ坐視シ得マイ。

△「バラীগ」(七月十八日)

北支カ支那ノ一部ナルコトヲ日本ハ忘却シタ。而モ列國、符ニ英蘇兩國ハ利害關係ヲ有スル故日本ヲシテ支那ト單獨ニハ戰ハシメマイ。

尙英佛字新聞カ多ク沈黙ヲ守ルニ反シ、亞刺比亞語紙ハ事態惡化ト共ニ徐々ニ論評ヲ加ヘ來リ、其ノ筆致ハ漸次妥當ヲ缺クノ傾向モ見エル。

事變ト支那狀勢

(1) 蔣介石ノ聲明全文（七月十九日）

北支事變ニ關スル七月十九日蔣介石ノ聲明全文ハ左ノ通りナリ  
一 中國カ對外平和ト國內統一維持ノ根本政策ヲ遂行シテ居タル矢先  
突如トシテ蘆溝橋事件發生シテ全國民ヲ深刻ナル憤激ノ状態ニ投  
込ミ、全世界ニ一不危懼ノ念ヲ興ヘテ居ル、此ノ事件ノ齎スヘキ  
諸結果ハ、中國ノ存在目録ト東亞平和トヲ脅威スルニ至ツタ、此  
ノ重大時期ニ際シテ種々ナル質問、照會ニ答ヘ予ハ次ノ如ク述ヘ  
度イト思フ

中國民族ハ終始和平ヲ愛好スル國民政府トシテハ國內政策ニ關シ  
テハ常ニ國內統一ノ維持ヲ目標トシ、且對外關係ニテハ他ノ諸國  
トノ相互尊重ト共存ヲ目標トシテ居ル

本年二月三中全会ノ宣言書カ以上ノ諸點ヲ明瞭ニ強調シテ居ル、  
過去二箇年間ノ明白ナル事實カ證明スル通りニ、國民政府ハ日本  
ニ對スル政策テ一切ノ懸案ヲ整調シテ一般ニ承認サレタ、外交交

我々ハ、我々ノ爲スヘキコトハ唯一即チ我カ全國民ノ精力ノ最後ノ一滴迄モ傾倒シテ國家存立ノ爲抗爭スヘキノミテアル、而シテ一度右抗爭カ開始サレタ時ニハ時間上、情勢上カラモ中途ニシテ止ミ以テ和平ヲ求メルコトハ許サレナイ、一旦紛争ノ始マツタ後ニ和平ヲ

山縣有朋、集議全文、一月十九日

涉ノ方法ニヨツテ公正テアリ解決ノ達成ヲ常ニ期待シテ來タ、我國民ハ中國ノ地位ト立場ヲ了解シ、併セテ我々ハ吾人ノ立場ヲ認識シナケレハナラヌ、弱國ノ人民トシテ我々ハ自己ノ力量ノ程度ヲ正當ニ評價セネハナラヌ、過去數箇年間ニ於ケル重大ナル國難ニ當面シテ耐エ難キ苦痛ヲ忍ビ乍ラモ、我々ハ隱忍自重面目ヲ傾注シテ和平ノ確保ニ努力シ以テ民族復興ノ實現セラレン事ヲ希望シタ——故ニ一昨年ノ五全大會ニ於イテ外交報告ニ當リ予ハ「和平ノ維持力完全ニ絶望テナイ限り、我々ハ決シテ和平ヲ棄テス、我々ハ目測隱忍ノ極點ニ到シナイ限りニ於テ輕々シク犠牲ヲ談シナイテアラウト述ヘタカ、其ノ後ノ中央執行委員會ニ於ケル聲明ヲ見テモ我々ノ和平維持ニ對スル熱意カ明瞭テアル、假令弱國タリトハ言ヘ、若シ不幸ニシテ最後ノ關頭ニ立チ到ツタナラハ、我々ノ爲スヘキコトハ唯一即チ我カ全國民ノ精力ノ最後ノ一滴迄モ傾倒シテ國家存立ノ爲抗爭スヘキノミテアル、而シテ一度右抗爭カ開始サレタ時ニハ時間上、情勢上カラモ中途ニシテ止ミ以テ和平ヲ求メルコトハ許サレナイ、一旦紛争ノ始マツタ後ニ和平ヲ



求メレハ我國家ノ屈從、我民族ノ全滅ヲ意味スル條件ヲ甘受セネ  
ハナラヌ、願クハ全國民ハ「隱忍ノ限度」ト此ノ限度ヲ越エタ後  
ニ於イテ惹起サレル犠牲ノ範圍ヲ充分認識サレンコトヲ希望スル  
一段段階ニ到達スレハ我々ハ常ニ究極ノ勝利ヲ期待シナカラ如何  
ナル犠牲ヲ拂フトモ敢後迄戦ヒ抜カネハナラヌ、若シモ我々力躊  
躇シ徒ニ一時ノ偷安ヲ貪ルヤウナコトガアラハ我々ハ永久ニ滅亡  
スル外ハナイ、

ニ世上ニハ蘆溝橋事件カ何等強メ重畳サレヌ突發的措置ト想像スル  
者カアルカモ知レナイカ、既ニ一箇月前カラ日本ノ新聞ト熊多  
外交機關ノ言明ニ徴スモ何等カノ事件力起ルタラウトノ徵候カ着  
取サレタ、更ニ事件勃發ノ前後ヲ追シテ各方面カラ日本カ塘沽協  
定ハ擴張ヲ企圖シテ居ルトカ、冀東偽政府ヲ擴大シヤウトカ、第  
二十九軍又ハ、宋哲元ヲ追出サウトカ、其ノ他種々ナル要求ヲ押  
付ケヤウトシテ居ルトノ報道ヲ接受シタコトカラ見テモ蘆溝橋事  
件ノ勃發カ偶然事件テナイコトカ直ニ明瞭トナルコトト思フ、此  
ノ事件ヨリシテ日本カ我々ニ對シテ極メテ判然トシタ態度ヲ包藏

シテ居ルノテ、和平ハ容易ニ維持シ得ナイコトヲ悟ラネハナラヌ。  
我々ノ情報ニ依レハ蘆溝橋事件ヲ回避シ得ヘキ唯一ノ方途ハ外國  
軍隊カ我領土内ニ侵入シテ自由無制限ニ横行濶歩スルコトヲ容認  
シ而モ中國軍隊ハ其ノ移動ニ付イテ幾多ノ制限ヲ受ケルコトヲ承  
認スルノ外ナク、又或ハ相手方カ我兵ニ發砲スルヲ容認シテ而モ  
應射出來ヌト言フコト以外ニハ長ノ万端ハナカツタテアラウ。苟  
モ自尊心アル以上世界中如何ナル國家ト雖、カカル屈辱ヲ甘受ス  
ルコトヲ得ヤウカ東北四省ヲ喪失シテ以來茲ニ六箇年次イテ塘沽  
協定アリ、次イテ今ヤ蘆溝橋事件ニ於テ、方ニ北平ノ城内  
ニ到達シタ、若シ蘆溝橋カ武力ニ依ツテ占據サレルコトヲ容認ス  
ルナラハ、中國四百年ノ故都トシテ全北支方面ノ政治的、戰略的  
中心ハ敵ニヨツテ失ハレルノテアル、今日ノ北平ハ第二ノ奉天ト  
ナリ河北、察哈爾兩省ハ東北四省ト同一ノ運命ニ陥ルテアラウ、  
萬一北平カ第二ノ奉天トナツタナラハ、南京カ第二ノ北平トナル  
コトヲ如何ニシテ阻止スルコトカ出來ヤウカ、故ニ蘆溝橋ヲ保全  
シ得ルカ否カハ中國存亡ニ懸ル所テアル、今回ノ事件カ果シテ平

和解決カ出來ルカトウカハ我等ノ所謂「隱忍巨重ノ限界」ニ屬ス  
ル問題テアル、若シ最悪ノ事態ヲ避ケルコトガ出來又段階ニ到達  
シタナラハ、我々ハ斷然抗爭スル外ハナク、且最後ノ犠牲ヲモ敢  
テ辭セナイモノテアル、此ノ我々ノ抗爭コソ外敵ヨリ我々ニ強制  
サレタモノト言フヘキテアリ、我々ハ戰爭ヲ目ヲ求メルモノテハ  
ナク、唯我々ノ生存ヲ脅威スル攻擧ニ對シテ應戰スルモノテアル  
全國民ハ、中央政府力目下防衛手段準備ノ眞最中テアルコトヲ了  
解サレ度イ、假令弱國テアルト雖我等ハ民族ノ完整ヲ維持シテ國  
家ノ存立自體ヲ保障スルコトヲ怠ルコトハ出來ナイ、最善ヲ盡シ  
テ祖父傳來ノ此ノ遺産ヲ保全スルコトハ我等カ全力ヲ以テ遂行セ  
ネハナラヌ事ニテアル、然シ乍ラ戰一展縮マツタナラハ邊巡姑苒  
ハ許サナイ、最後迄戰ヒ抜カネハナラヌコトヲ充分了解セネハナ  
ラナイ、若シモ此ノ上更ニ一寸ノ領土カ失ハルニ到ツタナラハ吾  
人ハ我民族ニ對シテ許シ難イ罪ヲ犯スコトトナル、斯ノ如キ場合  
ニ於ケル我々ノ義務ハ國民ノ全力ヲ傾注シテ外敵ニ抗爭シ最後ノ  
勝利ヲ期スル一途アルノミ、

此ノ嚴肅ナ瞬間ニ於テ、日本ハ蘆溝橋事件カ日支兩國ノ一大戰爭ヲ招來スルカ否カラ決定セネハナラヌ、日支兩國間ニ未タ和平ノ希望カ少シモ殘ツテ居ルカ何ウカハ、一ニ日本軍ノ行動如何ニ懸ツテ居ル、和平ニ對スル一切ノ希望ヲ拋棄スル最後ノ瞬間ニ至ル迄、我等ハ依然トシテ正常ナル外交機關ヲ以テ事件ノ解決ヲ求メルモノデアル、今回ノ事件ニ付イテ我等ノ態度ハ次ノ四件ニ要約出來ル、

イ、如何ナル解決案モ中國ノ領土完整ト主權ヲ侵害スルコトヲ許サス

ロ、冀察政務委員會ノ地位ハ、中央政府ノ決定スル所ニシテ如何ナル非合法的變更ヲモ許サス、

ハ、冀察政務委員會委員長ノ如キ中央政府ノ任命シタ地方官憲カ、外部ノ壓迫ニ依ツテ罷免サルルコトニ同意スルコトハ出來ヌ

ニ、第二十九軍ノ現在ノ駐屯區域ニ對シテ如何ナル制限ヲモ甘受シ得ナイ、

如何ニ弱國タリト雖國家タル以上右四箇條ハ交渉ノ基礎トシテ

承認シ得ル最少限度ノ條件テアル、若シ相手方カ地位ヲ變ヘテ我等ノ地位ニ立ツテ東亞平和ノ維持ヲ主眼トナシ日支兩國國民ヲ戰爭ノ渦中ニ捲込ミテ相互ニ永遠ノ仇敵トナルコトヲ希望セサレハ右四條件カ考慮シルヘキ最少限度ノ條件テアルコトヲ承認スルテアラウト思フ、要スルニ今回ノ蘆溝橋事件ノ危機ニ當ツテ中央政府ハ中國ノ存立ヲ確保スヘク、明確ニシテ斷乎タル立場ヲ堅持シテ居ル、中國ハ一獨立國家テアル、我等ハ和平ヲ欲求スル、然シ乍ラ如何ナル犠牲ヲ拂ツテモ和平ニ執着スルモノテハナイ、我等ハ戰爭ヲ欲セス、然シ乍ラ我々ハ我等自身ヲ防衛スルノ已ムナキニ至ルカモ知レヌ、此ノ重大危機ニ當リテ政府ハ冷靜自重以テ國民ノ指導ニ當ルテアラウ、國民モ亦眞剣ナル態度ヲ以テ、一糸亂レサル統制ヲ示サネハナラヌ、民族ニ對スル義務ノ遂行ニ關シテハ、南北老幼ノ別ナク一致團結綱鐵ノ統制ヲ示シテ政府ノ指導ニ從フ様希望スルモノナリ。

(2) 蔣介石ノ聲明支持 (二十一日ノ南京紙)

廿一日ノ南京漢字紙ハ「日本軍大舉攻撃ヲ開始ス」トノ見出ノ下ニ  
戰況情報ヲ大々的ニ報道シタカ、各紙共一齊ニ廬山談話會ニ於ケル  
蔣介石ノ演說ニ關聯スル社説ヲ掲ケ、大體ニ於テ蔣ノ演說ハ中國ノ  
立場ヲ明白率直ニ述ヘタルモノテ、且其ノ述ヘタ中國ノ要求ハ中國ノ  
トシテノ最小限度ノ要求テアル、國民ハ所謂最後ノ卒頭ニアルコト  
ヲ自覺シ國土ヲ守ル爲メ國團結スヘク、一方日本ニ對シテハ中國ノ  
立場ヲ理解シ東洋平和ノ爲メ反省ヲ求メテ熄マヌト論シタ。

「同日ノ南京各漢字紙ハ大見出テ廬山談話會ニ於ケル蔣介石ノ訓示  
ヲ大々的ニ報道シタ。南京日報ハ社説ニ於テ右訓示ハ切々之ヲ世界  
ニ告ケテ民衆ヲ諭シタルモノテアリ、又敵國日本ニ對シテモ一大痛  
棒テアル、吾人ハ沈着ナル政府領袖ノ指導ノ下ニ、生死ヲ共ニシ光  
榮アル國土ヲ守ルヘシト論シ、其ノ他、各紙ハ何レモ好戰的報道及  
記事ヲ掲載シタ。」

(3) 援助抗敵將士委員會組織

「七月十八日漢口市商會、各業工會、各新聞通信社、學校其ノ他六十七

團體代表ハ、銀行公會ニ於テ談話會ヲ開催シ、援助抗敵將士委員會ノ組織ヲ決議シ、國民政府ニ對シテモ民衆ノ自動的漢奸除去、對日經濟絕交等ヲ建議シ、宋哲元ニ對シテ日本側ノ中央地方間ノ離間策ニ陥ラサル様且主權ヲ犧牲ニシテ和平ヲ得テモ、右ハ投降ト同一ナリ、速ニ保定ニ歸リテ將士ヲ指揮スヘキ旨夫々電報ヲ發シ、記者公會モ宋宛同様保定歸還方勸告電報ヲ發シタトノ事テアル、其ノ他十四日以來平漢鐵路、浙贛鐵路、郵務工會等ニ於テモ、團體ヲ組織シテ通電或ハ寄附金ノ募集ヲ爲シテ居ル、人力車工會車夫二千人ハ北上義勇隊及輸送隊組織方ヲ決議シ、漢口市五文化團體ハ「抗敵守土ノ叫ハルル此ノ際實施スヘキ慰撫ト懲罰」ナル文章ヲ發表シ、抗敵將士ノ精神慰撫及將士ノ家族ノ生活ヲモ保障シ、漢奸ノ處罰ニハ連座法ヲ施行スヘキ旨主張シタ、又新生活運動促進會ニ於テハ次第ニ運動ヲ起シテ近ク實行ニ移ル趣テ、抗日宣傳モ漸ク活潑トナツテ來タ。

(4) 中國共產黨ノ通電

漢字紙報道ニ依レハ、中國共產黨ハ蘆溝橋事件發生スルヤ七月八日

直ニ南京政府、全國各軍隊、黨部、各新聞社ニ宛テ全國抗日戰爭ノ  
發動方左ノ如ク通電シタ起テアル。

華北ハ目下日本ノ武裝敵侵略ノ危險カ極メテ大トナツタ、數ニ  
共產黨カ説明シタ議ニ日本ノ對華新認識及新政策カ新ナル攻撃  
ノ顛幕ニアツタコト明カトナツタ、平津華北ノ危險、中華民族  
ノ危急ハ全國民族ノ抗戰實行ニ依ル外活路ナシ、我等ハ直ニ攻  
侵シテ來タル日本軍ニ反抗スルト共ニ新ニ起ルヘキ大事業ニ對  
スル準備ヲ爲サナケレハナラス故ニ全國一揆シテ日本ニ對スル  
如何ナル平和的希望期待モ遠ニ棄テテハナラヌ、我等ハ瀋陽安  
部隊ノ抗戰ト華北當局ノ國土ト存亡ヲ共ニスヘシトノ宣言ヲ賞  
讃シ擁護スル、宋哲元ニ對シテハ二十九軍全員ヲ動員シ前線ニ  
テ應戰スヘキヲ要求シ、中央政府ニ於テハ二十九軍ノ急遽援助  
愛國運動ノ發揚、陸海陸軍ノ總員並ニ抗戰準備、漢奸、賣  
國奴、日本探偵ノ肅清ヲ要求スル、全國人民ニ對シテハ全力ヲ  
以テ神聖ナル抗日戰爭ノ援助ヲ要求ス。



支那

(1) 廬山會議

二、廬山行政院辦事處ハ、豫定ヨリモ一日遅レテ七月二日ヨリ事務ヲ開始シタ、

三、何應欽及顧祝同ハ三日正午飛行機ニテ九江ニ到着、廬山ニ登ツタカ、四川及西康軍整理ニ關シテ蔣介石ヨリ指示ヲ受ケタル後四川ニ赴ク筈テアル、

三、汪精衛ハ褚民誼、曾仲鳴等ト共ニ三日午後五時招商局汽船ニテ九江ニ來着直ニ廬山ニ向ツタ、

來ル七月六日ノ行政院會議ハ、廬山ニテ開催サレロトナツタル爲、王寵惠ハ二日、蔣作賓、王世杰、俞飛鵬、吳鼎昌、張公權、何應欽等ハ三日ヨリ五日迄ニ何レモ南京ヲ出發シテ同地ニ赴イタカ、汪兆銘モ亦病氣稍快方ニ向ツダノテ三日廬山ニ赴イタカ、張群、邵力子、陳立夫等モ談話會開催準備ノ爲五日廬山ニ向ツタ、尙王寵惠ハ

一箇月餘廬山に滞在ノ豫定、汪兆銘モ夏季中ハ廬山テ静養ノ豫定テアル趣ナリ。

(1) 談話會狀況

「廬山談話會第一回參加者八十三名ハ、續々參集シテ居ル、胡適、陳公博等モ七月十二日登山シタカ、同會ノ日程ハ十四日、十五日隨テ訓練見學十九日、二十日、二十一日ノ三日間ノ午前ハ總會寺ニ赴イ、後ハ分科會、二十二日ハ名勝遊覽、二十三日散會ノ豫定テ、分科會ハ政治、經濟、教育、外交ノ四組ニ分ケタル趣テアル。」  
「廬山談話會ハ七月十六日午前九時ヨリ、嶺圖書館大講堂ニ於テ汪精衛司會ノ下ニ蔣介石モ臨場シ、百五十餘名參集シテ開會セラレ、張群ノ報告、汪精衛ノ開催趣旨演說ノ後張君勳、江問漁ノ發言カアツテ散會シタ  
次イテ蔣介石主催ノ下ニ一同ヲ午餐ニ招待、席上汪精衛ノ演說、胡適ノ答辭等アツタ。」

(四) 廬山ニ於ケル汪精衛ノ演說要旨

廬山談話會ニ於ケル汪精衛演說ノ要旨ハ左ノ通りテアル、

一、今回ノ會合ノ目的ハ、國家及社會ノ諸問題ニ對スル抱負ト意見ヲ相互ニ披瀝シテ研究スル爲テ、如何ニシテ國難ヲ打開シ、又如何ニシテ民族復興ヲ圖ルヘキカニ主眼ヲ置クモノテアルカラ、在野諸君ノ意見ヲ聞キ又黨政當局ハ懇切ナル説明ヲ爲スヘキテアル、

二、施政方針ニ付テハ、各次ノ全國代表大會及中央執行委員會全體會議ニ於テ既ニ屢發表シタコトテアルカラココニ贅言ヲ要シナイ、施政ノ實情ニ付イテ諸君ノ忌憚ナキトコロノ批評ト隔意ナキ意見ノ發表ヲ望ムモノテアル

三、一八以來「精誠團結共赴國難」ハ、國民黨同志ノミナラズ全國民一般ノ「スローガン」テアル、全國一致シテ見解ノ相違或ハ政策ノ異同ヲ捨テ、統一ニ邁進シテ今日ニ至ツタルトコロ、今回ノ蘆溝橋事件ノ勃發ニ依ツテ事態急迫建國ノ精神力ト物質力トヲ一丸トシテ抵抗自救ノ一層必要テアルコトヲ痛感スル、

一、政府ハ從來延擱大綱ニ依ツテ處辦シテ來タカ軍政、訓政ノ時期ヲ  
繼テ今將ニ憲政時代ニ入ラントシ、今回ノ國民大會ニ依リテ憲法  
ノ制定及右施行時期ノ決定ヲ議セントシテ居ル、同大會ヲ如何ニ  
運用スヘキヤ即チ憲法草案ニ付イテ單ニ其ノ可否ヲ決スルニ止ム  
ヘキヤ或ハ又條文修正等ヲモ議題トスルコト然ルヘキヤ等ニ付イ  
テ各位ノ意見ヲ承リ度イ、

一、憲法草案第一條ノ「民國ハ三民主義共和國トス」ノ規定ト、第十  
六條ノ「人民ノ集會結社ノ自由」ノ規定トカ牴觸スルトノ非難カ  
アルカ、憲法制定權ハ同國民大會ニアル、大會ハ人民ノ意思ヲ反  
映スヘク、又憲法施行後ニ於ケル政治關係集會結社ノ自由如何ニ  
付テモ考慮スル處ナカラウ、何トナレハ三民主義ハ民國建設ノ目  
的ニシテ、國民革命完成ノ目標テアル、國民黨員テナイ同胞モ皆  
此ノ信仰ヲ有シテ、救國ト民族復興ノ爲ニハ三民主義實施ヲ望マ  
ナイ者ハナイ、今ヤ對内的ノ分裂ナクシテ對外的ニ抵抗スル爲ニ  
全國一致ヲ冀ハサル者ハ國民トシテナイハステアル。

(一) 會議議題中ノ重要事項

廬山會議議題中重要事項ハ左ノ通テアル、

(一) 小麥及雜穀類本年減收ノ爲ニ價格騰貴シ明年小麥ノ新規出廻リアル迄其ノ輸出ヲ禁止シ、高粱、玉蜀黍、蕎麥、粟其ノ他ノ雜穀及各種穀類ハ民國二十年ノ輸出税則ニ依ツテ本年十月迄輸出税ヲ徵收スル、

(二) 江西省政府委員兼建設廳長龔學遂ノ兼職辭任ヲ認メ建設廳長ノ職ハ熊式輝ヲシテ兼攝セシム、

(三) 四川省政府委員兼建設廳長盧作孚モ兼職辭任ヲ認メ、何北衡ヲシテ建設廳長ヲ代理セシム、

(2) 小麥ノ輸出禁止

過般來小麥ノ輸出禁止説カ傳ヘラレテ居タカ、今回政府ハ小麥ノ市價ヲ調節シテ國內ノ需給關係ヲ圓滑ニスル爲ニ、明年六月末日迄暫定的ニ小麥ノ輸出ヲ禁止シ、尙現在免稅中ノ雜糧ノ輸出稅ヲ本年十月末日迄復活徵收スル旨決定シテ各海關ヘ通達シタ趣テアル。

上海稅關ハ七月六日附ヲ以テ左ノ通り告示シタ。  
(一) 民國二十七年(一九三八年)六月三十日迄小麥ヲ外國及滿洲(大連ヲ含ム)ヘノ輸出ヲ禁止スル、

(二) 左記雜糧ニ對シ本年十月末日迄輸出稅ヲ課ス

蕎麥(稅番四六)百斤(以下同様)〇・二一元

高粱及玉蜀黍(四八、四九)〇・二四

粟(五〇)〇・四三

其ノ他ノ雜糧(五四)〇・四一

其ノ他ノ雜粉(四七、二)從價七分五厘。

(3) 人絹製品ニ對スル輸入稅ニツイテ

上海稅關ハ、七月八日附ヲ以テ輸入稅番一三七、一三八、一四〇乃

至一四五號ノ人絹製品（交織ヲ含ム）ニ對スル稅額カ、白姓ニ付日  
二十六金單位ヨリ低額トナルトキハ右從價稅率ヲ適用スルコトトシ  
テ七月十一日ヨリ之ヲ實施スル旨告示シタ。

（4）小麥粉輸出禁止

「上海稅關ハ七月十六日附ヲ以テ小麥粉ノ上海ヨリ國外及沿岸向ケ  
輸出ヲ一時禁止シタ旨告示シタ。」

（5）余漢謀、福建綏靖主任兼任、

「廣東方面ニ於テハ余漢謀ハ蔣鼎文ノ西安行營主任代理ニ轉任シタ  
ル後ヲ承ケテ、暫時福建綏靖主任ノ兼務ヲ命セラレタ、南京沿岸ノ  
閩、粵共同防備ニ關シテハ、廈門以南ハ余ノ兼務ニ直クコトトナツ  
タト云フコトデアル。」

(6) 許世英ノ上海各界聯合送別會ニ於ケル演說要旨

七月十七日「ブレンデント・クリーヴランド」號ニテ上海發歸任ノ途ニ就イタ駐日大使許世英氏ハ、出發ニ先立チテ十六日午後五時ヨリ上海各界聯合送別會ニ臨ミ席上次ノ如キ題目スヘキ演說ヲ爲シタ余ハ本年三月初旬歸國ノ際ニ、日本在任一高年尙外交ノ目録ヲ正統ニ置キ正義ノ勝利ハ誠意ニ在リ、正義外交ハ如何ナル外交ニモ勝ルコトト信シテ實行シテ來タト聲明シタト記憶スル、自分ハ元來日本語ヲ知ラサル故ニ其ノ使命ヲ充分果シ得ナイノヲ辭行致意、至外交部長ニ適當ナ人物派遣方ヲ懇請シ辭職ヲ申出タカ許可サレス、已ムナク本年五月初旬歸任セントシタカ、四月十三日突然中耳炎ヲ患ヒテ臥床五十三日、漸ク恢復シタカ尙元ノ健康ニハ復シテ居ナイ、個人ノ健康ハ素ヨリ問題トセス、安逸ヲ望ムモノテハナイカ、唯激務ニ耐エスシテ其ノ職責ヲ充分盡シ得ナイ事ヲ懼ルルモノデアル

七月七日蘆溝橋事件發生シテ、情勢ハ益重大化シ大使ノ職務ハ一日モ忽セニ出來ヌ、政府亦辭職ヲ許サス病ヲ推シテ再ヒ歸任セントス、有田前外相ハ戰爭ト云フ言葉ハ、外交官ノ使用スヘキ言葉テハナイ



ト言ハレタ、近衛公ハ日本全體ノ衆望ヲ負ヒテ組閣ニ際シ、國際正義ヲ宣言シ廣田外相亦對支三原則ヲ宣言シタ。

現在ノ平津時局ハ極メテ重大ニシテ、日本當局ハ不續大ヲ表示シタカ余ハ近衛廣田兩氏カ其ノ本來ノ意思ニ基キテ兩國國交東亞ノ平和、憲イテハ人類ノ福祉ノ爲其ノ職責ト初志ノ貫徹ニ努力セラルン事ヲ希望ス、余ハ老年猶身テアルサレトモ子々孫々ノ爲、日支兩大民族百年ノ禍ヲ除ク爲ニ努力シタイト思フテ活ル、如何ナル國家ト雖其ノ獨立生存權ヲ保有スル、夫レハ他人ノ生存ヲ妨害シナイコトヲ前提トスヘキテアル、然ラサレハ他人ハ迷ニ起ツテ防禦セサルヲ得ナイ、其ノ防衛ハ正義ニ基クモノテアル、シカシ主權ヲ喪ハスシテ國家ヲ辱メサル様ニ努ムルコトハ吾人今日ノ職責テアル、余ハ本年初頭、本年コソハ實ニ中日關係上之ヲ改善セスシテ放任シタナラハ必ス悪化スル事ヲ深ク信シテ居タカ果シテ現在ノ重大時機ニ際會シタ、若シ正義ニ基キテ至大ノ誠意ヲ以テ解決シナケレハ其ノ責ハ素ヨリ自己ニ在ル、若シ日支兩大民族カ東亞平和、人類福祉ニ努力セサレハ前途ハ想像ニ餘リアル、即チ兵火相次キ惡因ノ有ルトコロ必)ス

ヤ惡果ヲ結フテアラウト思フ、正義ノ外交ハ國家國民ノ意思、力量ノ表現ニ在ル事ヲ深ク信スルト同時ニ、我カ四億五千萬ノ同胞ノ意思、力量ノ集中ハ其ノ價值越カニ近代科學技術ノ軍隊ニ勝ルモノト信スルノテ、今回ノ歸任ニ際シテモ大ナル力ヲ盡スルモノテ、各位及全國同胞ノ強固ナル意思ハ外交ノ原動力アリ、自分ノ使命ヲ辱シメヌモノテアルト信スル。」

(7) 濟南鐵路公司選舉會發會式

「濟南鐵路公司選舉會發會式ハ、各理事並ニ當地有力官民多數列席ノ下ニ七月十日午前九時濟南膠濟鐵路招待處ニ於テ盛大ニ舉行シ引續キ第一次理事會カ開催サレタ。」

(8) 楊子江ノ増水

數日來沙市方面楊子江ハ、連ニ増水シテ七月十九日拂曉ニ至リ沙市堤防外洋碼頭及其ノ附近ノ浸水深サ二尺餘、浸水家屋約百戸ニ及ビ、沙市帝國領事館テハ以前ニモ浸水ヲ見タカアルカ目下尙増水シテ居ル

十九日八時ニ於ケル雨標ハ、三一、五呎ニシテ堤防外ハ小舟ニテ漕航シテ居ルカ、昨年ノ増水時ニ比シテ約一呎低ク昭和十年ノ洪水ノ時ニ比シテ尙四呎餘ヲ餘シテ居ル。」

(9) 廣州市附近ニ「コレラ」發生、  
七月二十日頃ヨリ廣州市附近ニ「コレラ」發生シテ、死亡者多數アリ。

(10) 日英交渉(新聞論調)

△「ノース。チャイナ。デイリー。ニューズ」(上海七月六日)

「日英會談ニ付テ、支那側ノ一部ニハ相當氣ヲモンテ居ル様ニ見受ケラレルカ、少クモ支那政府トシテハソナ考方ハシテ居ナイモノト信スル、之ハ先般外交部長王龍威比カ日本人記者團トノ會見ニ於テ述ヘタ見解カラ見テモ明カナルトコロデアル、元來支那側ノ日英會談ニ對スル反對論ニ

(一) 若シ日英了解力成立シタ曉ニハ、何カ支那ニ不利益ナルコトカ發生セヌカト言フ懸念ヲ抱イテ居ツテ、列強カ若シモ一致セサレハ支那カ一番得ヲスルト言フ傳統的觀念ニ因ハレテ概念的ニ反對スルモノト、

(二) 日英ノ二大海軍國カ其ノ經濟的衝突ヲ解決シヨウトスル結果支那ニ於ケル權益ニ付テ安協スルコトニナリハセヌカト云フ具體

的反對論ヲ唱ヘルニ派カアル、

併シ之ハ共ニ謬ツタ見解テアル、日英會談ハ秩父呂城下ノ英國御  
傭在ニ依ツテ其ノ進行ニ好影響ヲ受ケテ、會談ハ結局成切スルモ  
ノト豫想サレ、且日本政府モ從來ニ比シテ一層合理的ナ對支政策  
ヲ採ル態度ヲ示シテ居リ、之カ日英兩國國民ヲシテ會談ノ成功ヲ確  
信セシムル有力ナ材料トナツテ居ル、日英兩國共ニ主權ノ保全ヲ  
含ム支那ノ基本的前權利ヲ充分尊重セハナラヌコトハ知ツテ居  
ル、日英會談ノ進行ニ付テ一々米國ニ通知スルト言フコトカ能ク  
之ヲ證明シテ居ル、今ノ時代ニナツテ舊式ノ分割主義外交力復活  
スル危險等ハ毛頭ナイ支那ハ安シテヨイノテアル。

(11) 汪精衛ノ談話要領

「汪精衛ハ、七月二日午前八時南京發ノ船テ廬山ニ向ツタカ、今同  
ノ廬山行ハ治病ヲ兼ねテ、蔣介石ト共ニ廬山會談ヲ主宰スルニアル、  
出發ニ際シテ汪精衛ハ南京記者團トノ會見テ日英會談ニ關シテ左ノ  
如キ意見ヲ述ヘタ、

日英會談ニ對スル中國ノ主張ハ、該會談カ極東平和ニ貢獻スル性質

ヲ有スルモノナラハ、當然實意ヲ表スルモノデアル、英國ハ支那ノ  
權益ヲ侵奪セサルコトヲ條件トシテ其ノ旨ヲ表明シテ居ルカ、日本  
モ之ニ倣ハンコトヲ希望スル。

(12)、「タン」紙特派員支那觀

豫テ渡文中ノ「タン」紙記者テ樞東迎ノ「アンドレ。テユボスク」  
氏ハ七月四日巴里ニ歸還シタカ、同日ノ「タン」紙ハ「民主主義ト  
日支關係」ト題スル同特派員ノ報告ヲ掲載シタ。要旨次ノ如キ。  
南京政府ノ要人及支那紳商ノ大多數ハ、現狀の見地カラ對日妥協説  
ヲ待ツテ居ル。日支ノ友好關係ハ漸クハナイカ、吾人ハ日支關係  
ヲ惡化サセテモ何等利益シナイ。南京要人ハ、外交力必スシモ友人ノ  
ミヲ相手トセス。吾人トモ交渉スヘキコトヲ知ルカ故ニ、日本ト  
)ノ接觸ヲ決シテ回避シナイ。南京政府ハ歐米諸國ト同様日本ノ進  
出ニ困却シツツアルカ、協定締結ノ平和手段ニ依リ對日妥協セント  
シテ居ル。之ハ同盟政策ニ依テ日本ノ反抗ヲ抑制セントスルニ優ル  
コト萬分。二年前予ノ訪日途次、外交界ノ反日系統ハ英米トノ提  
携ヲ策シ、而シテ其ノ成功ノ「チャンス」ハ日英關係ノ如何ニ依リ

47

左右サレツツアツタカ、今度支那ニ來テ見ルト、英米提携ニ符ニ蘇  
聯邦トハ言ハヌカ、他ノ國ヲ加ヘントスル傾向カ見エル。予ハ日支  
關係ノ危險ヲ信シナイ。危險ハ寧ロ他ニ存在スル。即チ同盟政策ノ  
世界平和ニ招來スル危険テアル。日本ノ戰爭ニ對抗スルニハ、政治  
同盟ニ依ラストモ他ニ政策カアル筈タ。英米同盟ニ他國ヲ参加セシ  
メントスル政策ハ、世界ヲ端的ニ戰爭ニ擧クハ必定テアル。在々日  
本ニ付テ經濟的防衛ノ他帝國主義ニ對スル民主主義ノ防衛ヲ考ヘル  
者カアル。即チ極東ニ於ケル日本ノ發展ニ對シ、在時ノ獨逸帝國主  
義ニ對シタト同様ノ敵意ヲ醸成セントスル情勢カアル。威權主義ハ  
大事タカ、其ノ適用ニハ現實ノ要求ヲ考慮セネハナラヌ。民主主義  
ハ歐米人ト亞細亞人ト其ノ形式、内容ヲ異ニスル。日本ト平和的ニ  
問題ヲ解決セントスル支那要人ハ歐米人ヨリ遙ニ現實的テアリ賢明  
テアル。

滿洲國

(1) 恩赦ニ關スル詔書煥發セラレ

「滿洲國ハ、今次ノ行政機構ノ改革、國務庶政ノ一新ヲ機會トシテ  
七月十五日恩赦ニ關スル詔書煥發セラレタ、  
コレニ依リ人心ハ一層安定シテ、王道政治ヲ謳歌スルニ至ルヘク其  
ノ效果ハ一般ニ期待セラレテ居ル。」

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page, containing Japanese characters.)

(1) 新財政立直措置要綱

イ、各種ノ増税

先般來佛國政府カ具體案ノ作成ヲ急イテ居タ増税等ニ關スル財政措置ハ、七月八日ノ閣議及同夜ノ大臣會議ニ於テ最後の決定ヲ見、大統領令トシテ十日公布ノ都合トナツタカ、右ニ關スル大藏省公表ニ依レハ、今次財政措置ハ約百五億法ノ歳入増加ニ依リ豫算ノ均衡ヲ計リ、他方脱税及投機ヲ抑壓セントスルモノテ、大綱左ノ通。

(一) 直接税ニ付テハ二萬法以上ノ所得ニ對スル一般所得税ノ二割増率  
〔各種所得税ハ來年ヨリ改正〕ノ外、有價證券税、不動産移轉税及印紙税ノ引上ヲ行ヒ、

(二) 間接税ニ付テハ生産税「タクス。ア。ラ。オ。ブ。ロ。ド。ウ。ク。シ。オン」ヲ引上ケ、關税ニ付テハ目下改正方研究中テ、全般的改正ヲ見ル迄  
關税及輸入割當品ノ輸入税ヲ一九三六年十月一日以前ノ率ニ引戻



シ、貨物自動車用「ガソリン」（乗用自動車用「ガソリン」ヲ除ク）ニ對スル税及煙草税ヲ引上ケ、

(三) 郵税、電信、電話料ノ引上ト共ニ、鐵道運賃ノ値上並ニ運轉系統ノ改正ヲ行ヒ（鐵道關係事項ハ未タ最後の決定ニ至ラス）、

(四) 他方脱税及没機取締ノ爲、特ニ有價證券等ニ依ル收入ノ監督ヲ強化シ、且本年六月十日乃至三十日間ニ行ハレタ金及外國貨幣ノ投機的先物買入ニ依リ得タル利益ニ對シテ八十割ノ特別税ヲ課スルコトトシタ。

#### ロ、「シ」首相聲明

今次財政措置ヲ決定シタ右七月八日夜ノ大臣會議後「シヨータン」首相ハ左記趣旨ノ聲明ヲ新聞ニ發表シ、同時ニ之ニ付「ラヂオ」放送ヲ行ツタ。

今次ノ重大ナル財政的難關克服ノ爲政府カ國民ニ要求スル努力ノ重キヲ知ルモ、予ハ又國民ニ於テ右カ祖國救済ノ條件ナルヲ了解スヘキコトヲ信シテ疑ハヌ。吾人ノ企圖スル經濟發展ノ事業ニシ

テ活氣ト社會的平和ノ間ニ遂行セラレンカ、其ノ成果ヤ期シテ待  
ツヘキノミ。是レ予カ佛國ノ繁榮ト國力増大ヲ目的トスル國家的  
努力ニ對シ國民ノ協力ヲ要請スル所以テアル。

#### ハ、藏相説明

他方藏相亦右大臣會議後新聞記者團ニ對シ、今次ノ財政措置ニ依リ  
政府ハ通常豫算ノ爲八十億法、鐵道豫算ノ爲、二十五億法計百五億  
法ノ捻出ヲ國民ニ要求スルモノナルコトヲ述ヘ、詳細ナル説明ヲ與  
ヘタル上、財政的建直ハ經濟的建直力之ニ並行セサル以上到底成功  
ヲ期シ難ク、而シテ豫算均衡ハ右二ツノ建直ニ對スル必須條件テア  
ル、トシテ國民ノ努力ヲ懇進スル聲明ヲ爲シタ。

#### ニ、新財政措置ト英國

佛「法」ノ動向如何ハ國際的通貨安定、延テハ世界經濟界ノ諸問題  
ニ緊密ナル關係アル故英國財界ニ於テハ多大ノ關心ヲ示シツツアル  
モ、特ニ昨秋「法」切下以來人民戰慄ノ警戒策強行カ結局「法」ヲ  
今次ノ運命ニ追込シタ事實ニ顧ミ、現佛國內閣ノ財政改善ニ關スル

具體策、其ノ效果並ニ佛國資本ノ復歸狀態如何ニ注意ヲ集中シ、三國通貨協定ニ關シテハ一部ニハ英、米ノ合作ニ依ル一億乃至四億磅ノ借款説アルモ、大勢ハ「法」擁護ノ爲替相場中蒙ルコトアルヘキ危險ニ對シ何等ノ保障ナキ限り、積極的援助ニ乘出スコトヲ躊躇セルモノノ如ク、又一九二六年ノ經驗ニ徵スルモ、自力更生ヲ原則トスル方却テ好結果ヲ得ヨウトノ観測モ行ハレテ居ル。

ホ、公債價格維持、來年度豫算編成方針

佛國政府ハ財政立直シ第二段ノ措置トシテ七月二十日朝ノ大臣會議ニ於テ公債價格ノ維持及來年度豫算編成方針ヲ決定シタルカ、新聞報ニ依レハ其ノ要綱左ノ通。

「法」ヲ純分千分ノ九百ノ金ニ依リ、四十三兆ト計算シタル場合ノ佛蘭西銀行準備金ノ價格増加額八十億法ヲ以テ公債價格維持資金トスル。

來年度豫算緊縮方針ヲ決定シ、近ク大統領令トシテ公布スル趣テアルカ、右ハ緊縮額ヲ擧ケス、近日中各省大臣間ノ話合ニ依リ決

定スルコトナラウ。

三 來年度土木事業費ヲ三十四億ト決定又國庫負擔輕減ノ爲來年度ヨリ臨時豫算ヲ努メテ通常豫算ニ編入スルコトトシ、右ニ依リ來年度臨時豫算ヲ二百四十億ニ縮少シタ。

四 尙向大臣會議ニ於テ前「ブルム」前内閣ノ任命ニ係ル佛蘭西銀行總裁「ラベイリー」ヲ名譽總裁トシ首席副總裁「フルニエ」氏ヲ總裁ニ任命シタ。

(2) 關稅獨裁權案兩院通過

關稅獨裁權及「ダンピング」對策強化ニ關スル法案ハ、發ニ下院關稅委員會ノ追加規定ヲ挿入シテ政府原案並リ六月十八日下院ヲ通過シタカ、上院ハ七月二日下院案ヲ其ノ儘可決採擇シタ。

(3) 佛國議會閉會

一月十二日以來開會中タツタ本年度通常議會ハ七月七日徹宵未決案件ヲ整理シ四八日朝六時四十五分閉會シタ。

(4) 公定歩台引下

佛蘭西銀行ハ七月六日割引率ヲ六分ヨリ五分ニ、證券ニ對スル貸出率ヲ七分ヨリ六分ニ、期限二年以下ノ證券ニ對スル三十日限貸出率ヲ六分ヨリ五分ニ夫々引下ケタ。

他方大藏省ハ七十五日以上百五日以下ノ通常國庫債券ノ利率ヲ七日ヨリ四%十六分ノ十五ニ引戻シタ。

(5) 佛國社會黨大會動議（西國問題）

七月十日ヨリ「マルセイユ」ニ閉催中ノ社會黨大會ハ七月十三日夜  
向黨ノ「シヨータン」内閣参加ヲ三四八四對一八六六ニテ承認シ、  
西班牙問題ニ關シテハ第二「インタール」及國際勞働組合聯合ノ共同  
決議ニ贊同シ、社會黨閣員ニ對シ、政府内部ニ於テ叛軍政府ノ交戦  
團體承認ヲ阻止シ、西班牙問題ノ聯盟提起及義勇兵撤退ヲ促進シ、  
西班牙國立銀行所有金塊ノ差押ヲ阻止セントヲ要求シ且佛國大使  
ノ「バレンシヤ」派遣ヲ要請スル趣旨ノ動議ヲ滿場一致可決シタ。



情報委員會七・二四 情報第一號

—南京放送（二十三日）—

- 一、北平二十三日電 二十三日平漢路ノ交通狀況左ノ如シ  
(一)午前七時二十分西停車場發ノ一列車ハ涿州ニ行き又一列車ハ九時發ノモノヲ十一時ニ延バシタ
- (二)十二時ノ客車保定ヨリ到着シタ  
午後二時客車一列車北平ヨリ保定ニ向ケ發車シタ
- (三)其ノ他各列車ハ二十日ヨリ現狀ニ恢復シタ
- 二、保定二十三日電 蘆溝橋正面ノ日本軍ハ二十一日既ニ後方ニ移動シテ平漢路局ハ工夫ヲ派シテ路軌ヲ修繕シ別ニ變化ハ發生シナカッタ
- 三、北平二十三日電 日本飛行機一臺今朝北平ノ上空ヲ半時間ニ亘リ偵察シタ。昨夜ハ八寶山ノ陣地ニ照明彈ヲ投下シタ
- 四、天津二十三日電 塘沽、太沽地方ハ平靜デアル、日本驅逐艦三隻ガ到着シテ居タガ一隻ハ今朝他ニ行ツタ、又天津ニ到着ノ日本飛行機ハ合計三十八臺デアル
- 五、北平二十三日電 日本飛行機三臺ハ二十三日朝長辛店蘆溝橋一帯ヲ偵察シタ後一時間後北平上空ヲ飛ビテ偵察一周シテ去ツタ
- 六、上海二十三日電 二十九軍ノ上海辦事處ニ着シタ秦德純カラノ電告ニヨレバ双方ノ軍隊少シク後退シタ後北平市ハ稍緩和ヲ見タト
- 七、天津二十三日電 日本軍第四師團カラ河北ニ來ル日本側運送船ハ二十二日朝塘沽ニ着スベク

194

1